

Ⅰ 全体計画

学校の教育目標

- かしこく 学び合いの中で、思考力・判断力・表現力を身に付け、自ら学ぶ子ども
- やさしく 規範意識が高く、相互理解に努め、人のために尽くす子ども
- たくましく 運動に親しみ、心身ともに健康で、体力・気力・意欲に充ちた子ども

令和3年度学校経営方針

「明るく平和な学校」「わかりやすい、誤解のない学校」を目指し、「良好な人間関係づくり」「一人一人に行き届く対応」「早期発見、早期対応」等に努め、子どもたちの安定した学校生活の構築を目指す。

本校の捉える「確かな学力」

新学習指導要領及びその年間指導計画・評価計画に基づいた基礎的・基本的な内容を確実に身に付けるとともに、自ら課題を見つけて思考・判断・表現し、学び合いを生かしてよりよく問題を解決する資質や能力。

令和3年度の指導の重点

<各教科>

- ・課題と向き合い、個でじっくりと考え、解決する主体的な学びの充実を図る。
- ・個の考えを集団（ペア、グループ、全体）で互いに伝え合い理解を深める対話的な学びの充実を図る。そのために、相手意識、目的意識を持たせた表現活動を計画的に実践していく。また、多様な考え方を交流できる授業を設計する。
- ・児童の実態から、特に国語では「話す力」「聞く力」、算数では、「思考力」「表現力」の育成を重点に指導の工夫を図る。

<特別の教科 道徳>

- ・全校として「思いやり」の育成を重点とする。人権教育の研究を生かし、さらに深めながら「礼儀」「友情・信頼」「相互理解・寛容」等を重点的に指導する。道徳的価値について多角的、多面的に話し合い自己の生き方を振り返る学習を目指す。

<特別活動>・学校生活や学級生活の充実や向上を目指した活動を展開することで自主的・主体的な実践態度を育成する。

<総合的な学習の時間>

- ・地域の人材や施設を活用し、体験的な学習や課題解決学習の充実を図ることで、自己解決能力・自己実現能力を育成する。

<生活指導>

- ・挨拶や礼儀等の基本的な生活習慣、規律ある集団作りのための指導に重点をおき、思いやりや望ましい人間関係の育成を図る。

<進路指導>

- ・小中連携教育をさらに充実させ、学力・体力・生活面で中学校への円滑な接続を図る。
- ・キャリア教育を通して、自分らしい生き方への希望や自覚を育成する。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・問題解決型学習の定着と充実
- ・ねらいの明確化
- ・学習意欲を引き出す課題の工夫
- ・粘り強く考える場、時間の工夫
- ・学び合う場、時間の工夫
- ・表現（内容や場面の精選、丁寧な「話す」「聞く」「読む」「書く」）の日常化

教育課程編成上の工夫

- ・授業時数の十分な確保と安定した進行（主体的に思考・表現する時間の確保、対話的に学び合う時間と環境の確保、個別指導のための時間の確保）
- ・朝学習の有効な活用（表現力の向上）
- ・休み時間や放課後等における補充学習の充実

評価の工夫

- ・年間指導計画・評価計画の活用、修正
- ・発言、ノート等の行動観察評価を基にした学びの状況把握と指導法の改善
- ・課題に対する自力解決の振り返りから生まれる児童の自己評価の充実
- ・学び合いから生まれる児童の相互評価の充実

校内研究・研修の工夫

- ・人権意識を育てる授業作りの研究の充実
- ・思考力・判断力・表現力を育成するための授業作りの研究の充実
- ・ICTを活用した授業作りの研究の充実
- ・学び合う教師集団のためのOJT

中学校との連携

- ・小中連携教育協議会を通して、課題を共有しながら共通指導の充実を図る。
- ・小中9年間の指導計画を基にして、系列を意識した指導内容と指導方法を研究し、乗り入れ指導で実践・評価する。

家庭・地域との連携

- ・保護者、地域の人材や施設を活用したコミュニティ学習
- ・家庭学習の習慣化（漢字、計算練習や読書・日記、楽器練習等）
- ・学校公開日、学校・学年・学級だより・ホームページ・メール等による情報発信

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

- ・算数科を中心に授業における全体指導・個別指導の充実を図るためのT・Tとしての活用
- ・休み時間や放課後、夏季休業等における補充学習の充実を図るための活用